



## 15kmの散歩

島本正敬 JA3USA

朝から雲一つなく晴れわたった11月28日、まるで思い付きで明日香でよく知られた高市郡にある高取城へ出かけることにしました。なぜ、高取城へ？ 島本家がお仕えたお城だということは、子供の頃から聞かされていたのですが、近くまでさえも行ったことがありませんでした。高取城は山城で海拔583mの山頂に位置しているため、通りかかるともなかったのです。

この高取城は、岐阜県の岩村城、岡山県の備前松山城と並んで日本の三大山城と言われるもので、国の史跡にも指定されています。

その日の夜には高校時代の仲間との飲み会が予定されていて、夕方には大阪市内へ行かねばなりません。かといって朝早くから出かけるのは不得意です。この限られた時間で山頂の城まで往復できるのかという心配、それに、山登りに自信があるのかという心配も加わりました。それではと、地元のタクシー会社に電話。車で城に最も近い場所を尋ねると、山頂まで徒歩で15分程度のところまで行けるとの返事。行程を調べて電車の到着予定時刻にタクシーを手配しました。

自宅から車で近鉄京都線の高の原駅へ向かい、大和西大寺を10時20分に出発する橿原神宮前行きの特急に乗車。橿原神宮前からは近鉄吉野線の特急に短時間で取り換えられるはずだったのですが、それが話題の「青のシンフォニー」というデラックス特急だったため、満席。乗車時間5分余りなので、立ち席でも頼みましたが、この「青のシンフォニー」は立ち席禁止とか。10分ほど後の各駅停車で壺阪山へ11時5分に到着。高の原を出発してからちょうど1時間。小学生の頃は同じような行程で何度も移動したはずだったのですが、やはり50年以上も経って速くなったものだ、昔の乗車時間も覚えていないのに感心してしまいました。

壺阪山駅に着くと予約したタクシーが駅前で待ってくれていましたので、すぐに一路高取城へ。最初の5分余りは、子供の頃によく歩いた道。昔は何もなかった道の両側に建物ざびり。壺阪寺の駐車場前を通過したところから道は狭くなり、自分で車を運転して来なかったことに一安心。タクシーで楽々標高500m辺りに到着。ここからはもう標高差100m弱しかありません。

タクシー降車位置にあった標識によると、550mでお城



の石垣が見えてくるはず。それほど整備されているとは言えない山道を登る。登る。結構歩いたつもりでも、石垣は見えてきません。11月下旬と言っても晴天のせい、汗びしょりになって頑張って歩いてやっと道の傾斜も小さくなり、石垣が見えてきました。



山城とは言え、一万平米の城。城内は高低差のある場所続きで平らなところはほとんどありません。石垣の石をここまで、どこからどうして持ってきたものかと驚かされます。城郭全体では6万平米で周囲30kmもあるとのこと。さすが、日本最大の山城です。南北朝時代に最初の城が作られ、その後も1615年の一国一城令でも撤去を免れた石垣が今も残されています。豊臣秀長の命により1583年に本多氏が入城し、当時としては近代的な城郭を形成、1640年に植村家が後を継

いで以降1869の版籍奉還まで続きました。明治政府の管轄となった後、1873年に廃城となります。はるか下方に位置する城下町高取から望む高取城は、「雪でござらぬ土佐の城」（土佐は高取の旧名）と言われるほど、天守や多くあった櫓の漆喰塗りの白が見える勇壮な城だったようです。廃城となった際に門や多くのものが移転され、現在も残っているものも多くあるようです。天守のあった場所からは吉野川周辺、奈良盆地のほぼ全域、大阪の淀川河口付近、京都市辺りまで見通すことができます。その日は本当に空気の澄んだ日。六甲山系までははっきりと見ることができました。



そこからは壺阪山駅まで5kmの下り坂。帰ってから見たGoogle Mapでは表記されていない、軽快に歩くこともできないような山道です。ところどころで、最近の大雨のためか、崩れた石垣、土砂崩れで倒れてきた木々の山、せき止められた渓流を見ることがもありました。でも、ほとんど人とすれ違わないように、目に入るのは木々、せせらぎ等という環境は疲れを全く感じさせません。でも、途中から人家が現れ、道も舗装されるようになると、気分もそれまでと同じとはいけなくなりました。

壺阪山駅まで0.1kmという標識の隣にキトラ古墳0.9kmの標識を見つけました。壺阪山駅から遠くないとは思っていましたが、0.9kmならと言ってもみることにしました。古墳の中を見ることができるとは思っていませんでしたが、すべてが人の手で作り直され、芝生の公園のようになってしまっているのには、がっかり。帰りの0.9kmが遠く感じました。



近鉄南大阪線で壺阪山駅から阿部野橋までは近鉄特急を利用しました。その時間、なんと45分。明日香や壺阪寺、今日ご紹介した高取城は、大阪から1時間圏内なんです。お天気の良い日を見つけ、ぜひお出かけてみてください。たった一日でも、ゆっくりと気分転換できる旅を楽しめると思っています。

12月の月例会はおやすみです。  
良いお年をおむかえください。



# 160 mでの思いがけない話

イタリアのDXベディション・チームIDTとアフリカへ出かけるようになってもう5年が過ぎました。この5年間、IDTのDXベディションには全て参加してきたのですが、今年11月に行われたJ5TギニアビサウへのDXベディションにはある事情で参加しませんでした。

この機会に彼らと160mでQSOできないかと、10年ぶりに160mのアンテナを準備することにしました。このアンテナの準備に予想外のことから丸二日を要してしまいました。やっとできたアンテナを試してみようと、翌朝不得意な早起きをして午前5時頃からワッチ。でも、あんまり聞こえませんでしたので、CQを2～3回出してみました。応答なし。

しばらくすると何局かのJAが誰かを呼んでいるのに気が付きました。その相手が誰かわからないものの弱いながら聞こえましたから、一緒になって呼んでみました。すると、僕に応答してくるのです。短いQSOを終えたものの、相手のコールが判りませんから、ログに記入できません。とりあえず、時間、周波数、

RSTをメモしておきました。

それから数時間後に、これまで幾度となくドイツFriedrichshafenで一緒にアイルランド在住のアメリカ人EI2CNからメールが来ていることに気が付きました。彼とは単に会ったというだけでなく、幾度となく一緒に食事をしたことがあるのです。それも、彼のXYLや僕のXYLも一緒だったということもありました。その彼からのメールには「UA4の局が僕の160mでのCQをクラスターに上げていたのを見て、JA3USAがCW？それも160m？偽物？」書かれているのです。それに続いて彼からのメールがもう一通ありました。今度は「驚いた！僕はCW専門。JA3USAはCWに出ないからQSOすることは一生ないと思っていた。それがQSOできるなんて。それもトップバンドで！」とのメール。

まさか、コールサインをコピーできなかったQSOを数時間後にログに書き込めるようになるとは、僕も想像すらしていませんでした。

de JA3USA

## Newsletter

<http://ji3zag.net/html/nl.html>

会報を自由にダウンロードすることができます

## Monthly meeting

at International House Osaka  
the 2nd Friday of each month

Web: <http://ji3zag.net/>

## Rollcall

Every Saturday 00:00UTC @21.370MHz

## 2018 Ham Radio

Friedrichshafen での開催は例年通り。  
でも、開催期間は6月1～3日です。



## ローテーター交換作業

プロップピッチ・モーターへ

on November 17, 2017

@ JA3USA